

平成29年3月  
世田谷区立喜多見小学校  
学校関係者評価委員長

## 平成28年度 学校関係者評価 報告書

### 1 関係者評価の目的

- ① 学校の改善
  - ・評価したことをもとに、改善を加えてより良い学校を目指す。
- ② 評価を通した意見の交流
  - ・評価を通して、学校や児童の実態について意見を交換し、課題の解決に近づける。
- ③ 保護者・地域との連携
  - ・本校児童を多くの人の目で見守ることができる関係づくりを重視し、学校と保護者・地域が連携することのできる関係の構築を目指す。

### 2 学校関係者評価の回収率

	児童(5・6年)	保護者	地域
配布数	217	714	47
回収数	217	515	32
回収率	100%	72%	68%
増減(昨年度比較)	±0	+4	+3

### 3 学校関係者評価の集計結果 ※別紙参照

### 4 本校の課題

今年度の保護者・地域・児童の各評価項目について、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「分からぬ」の合計の変動を見ながら考察した。

今年度の回収率は、児童については同じ回収率、保護者は4%増加、地域については3%増加した。

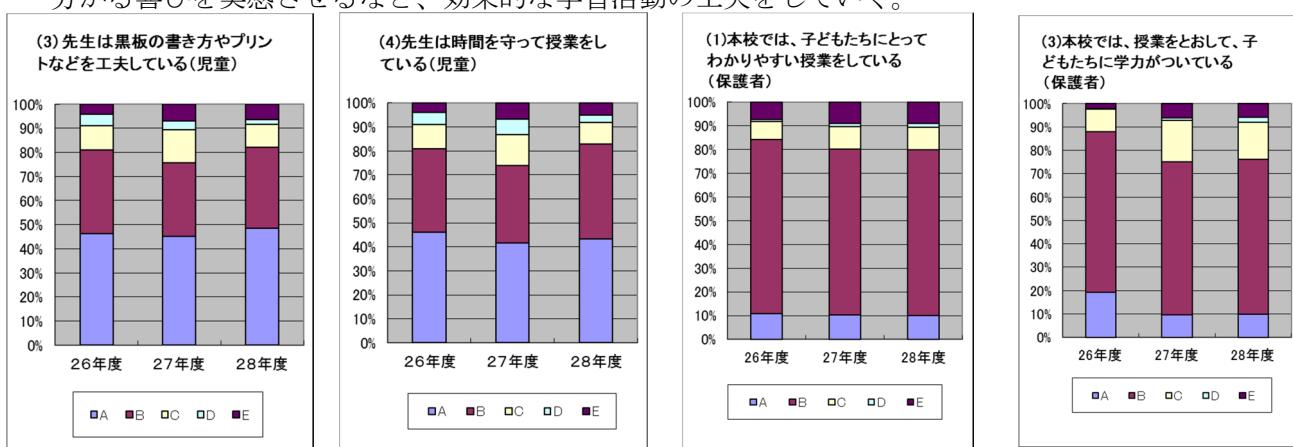
独自項目である「挨拶」「言葉遣い」については、おおむね昨年度とほぼ変わりない結果だった。これを受けて、学校や家庭における挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣づけを課題としている。また、保護者や地域の方への情報提供や連絡の周知など、学校に関心をもち、理解と信頼を得られるようにすることも課題である。

今年度も、同じ評価項目について児童・保護者・地域の結果と比較検討し、本校の課題について次のように報告する。以下の報告内容にある“肯定的な回答”を「とても思う・思う」とし、“否定的な回答”を「あまり思わない・思わない」とする。

## ①学習指導について

児童の「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」についての項目は、肯定的な回答が増加傾向にある。また、児童の「先生は時間を守って授業をしている」についての項目は、昨年より肯定的な回答が増加した。学習の見通しをもたせや学習規律を定期的に確認し、引き続き、校内研究や日々の授業研究を通して教材・教具の工夫をし、さらに多くの児童が授業を楽しめるようとする。

保護者の「本校では子どもたちにとって分かりやすい授業をしている」では、肯定的な回答が約80%で前年度と同程度の回答が見られた。また、保護者の「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」では、昨年度に比べ肯定的な回答が増加した。算数や国語の校内研究の成果や学び舎での思考力育成の取り組みの成果が考えられる。引き続き、保護者が「学力が付いている」と実感できるように、分かりやすい授業作りの工夫をしていく必要がある。教職員が課題をもって授業力を身に付けるよう研究や研修に励んでいく。また、計算力アップテスト等で基礎基本の理解を促し、分かる喜びを実感させるなど、効果的な学習活動の工夫をしていく。

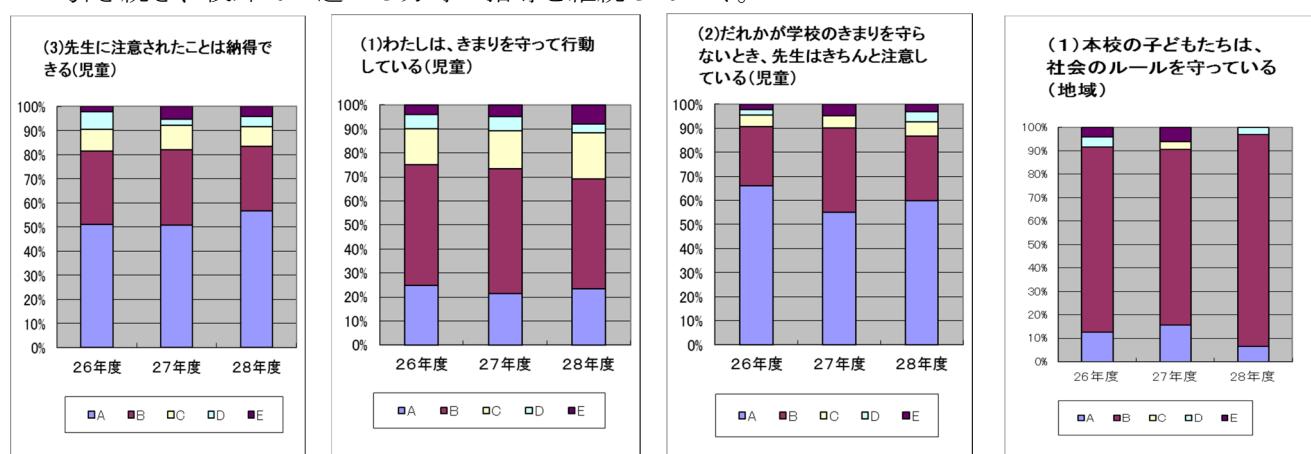


## ②生活指導について

児童の「先生に注意されたことは納得できる」の項目は肯定的な回答が増加傾向にあり、教師と児童が意思疎通を図り、よい関係を保ち指導が行き届いていると考えられる。しかし、児童の「わたしは、きまりを守って行動している」や「だれかが学校のきまりを守らないとき、先生はきちんと注意している」の項目は、肯定的な回答が減少している。「喜多見小学校よい子の一日」や「学習スタンダード」等、学校全体で守るルールを徹底させ、児童の規範意識を高めていくとともに、教師が児童の手本となるよう行動していく。

地域の「本校の子どもたちは、社会のルールを守っている」の項目は、肯定的な回答が増加した。

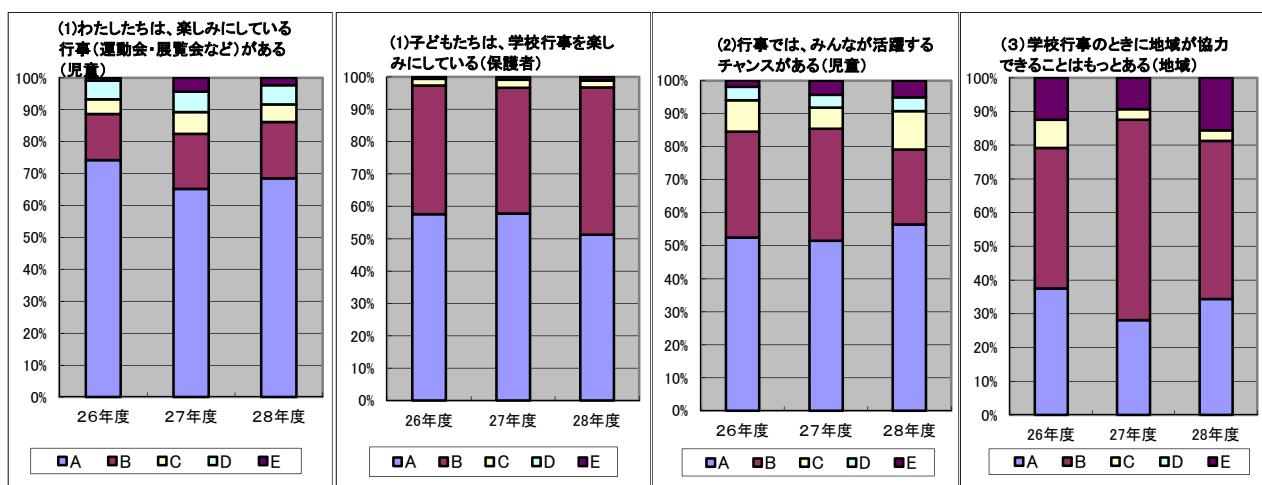
引き続き、校外での過ごし方等の指導を継続していく。



### ③ 学校行事（運動会、学芸会、学習発表会、宿泊行事など）について

児童、保護者ともに「楽しみにしている行事がある」「学校行事を楽しみにしている」の項目に対して、80%以上が肯定的な回答である。さらに、地域の「行事の内容は充実している」「準備・案内などで配慮がある」の項目も80%以上が肯定的な回答である。その一方で「学校行事のときに地域が協力できることはもっとある」の肯定的な回答が減少していることから、今後も学校行事等での地域との連携を大切にしていく。

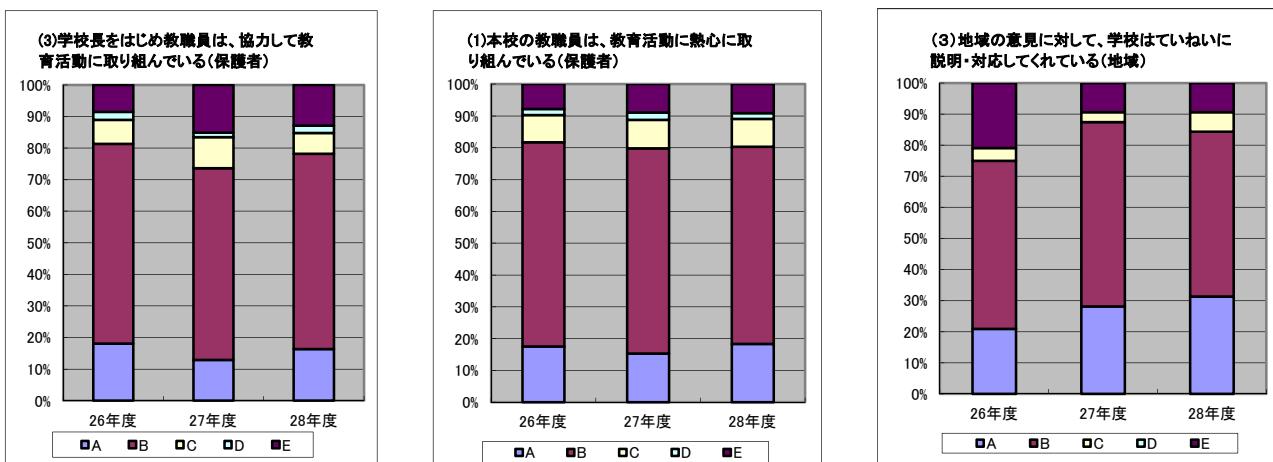
児童への質問「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」は、約80%が肯定的な回答ではあるが、減少傾向が見られた。大きな行事で少しづつ全学年に合った役割を設定する。また、司会が「何年生が～をしてくれました。」と伝える場を設けるようにし、各学年の活躍を全校に伝えるようにしていく。



### ④ 学校運営について

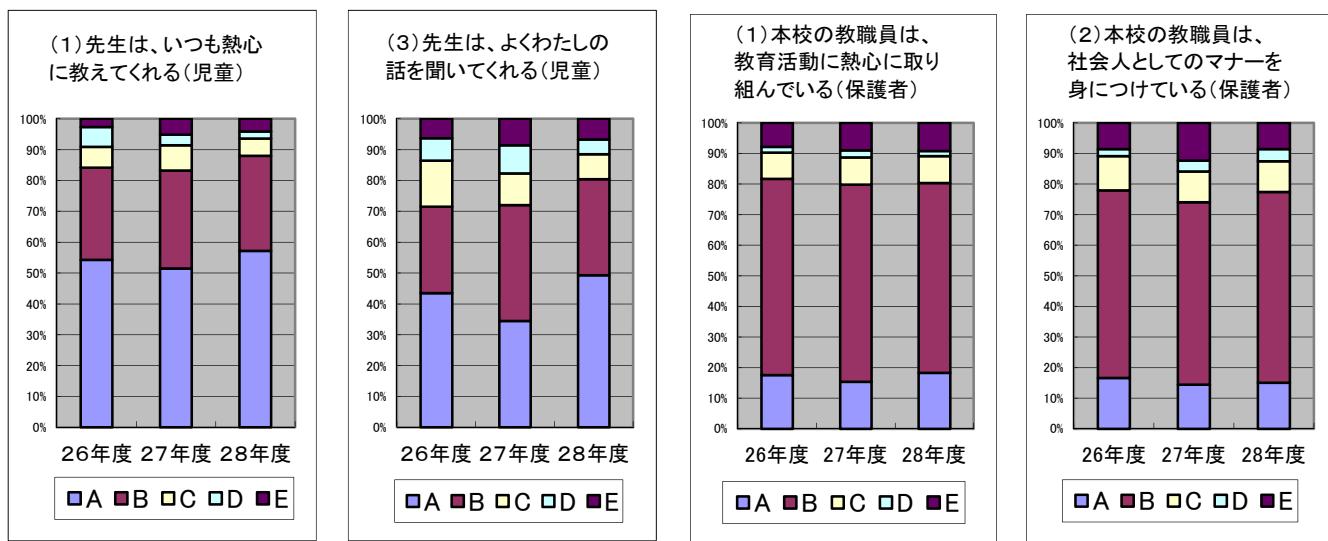
「学校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」「教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」の項目では、約80%の保護者が肯定的であった。その一方で、地域の「学校はていねいに説明・対応してくれている」の項目は肯定的な回答が少し減少している。

昨年以上に情報周知したり、その方法を工夫していくことで、学校への理解を得られるようにしていく。今後も、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、年度当初に行われる保護者会の出席を促して、多数の方に来ていただけるよう工夫していく。



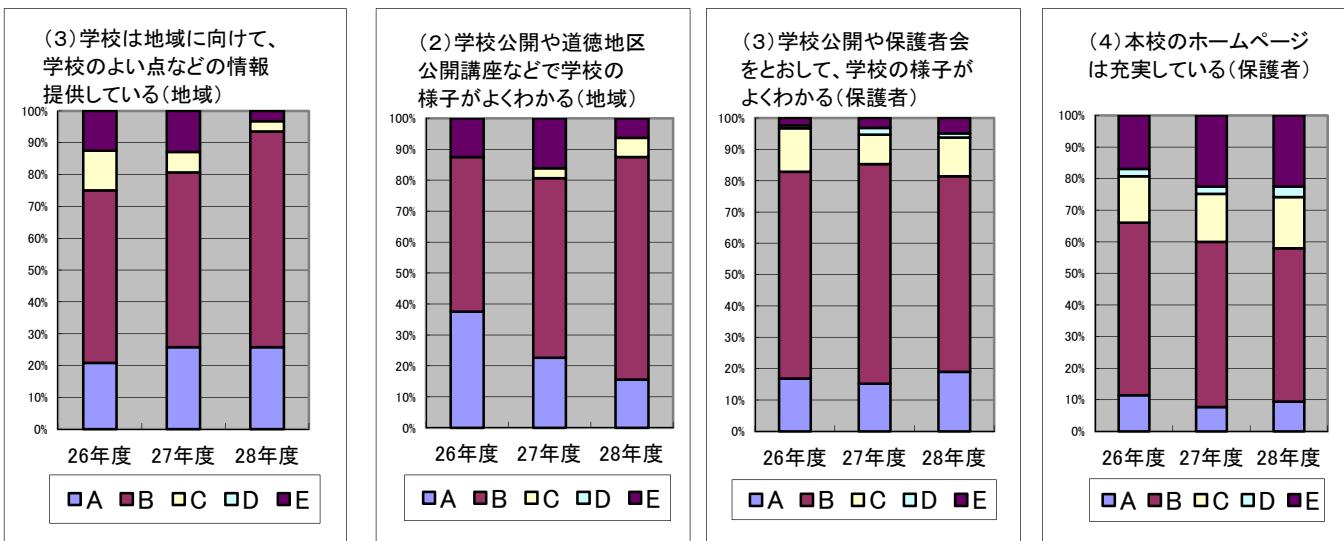
## ⑤教職員について

児童については、3つの評価項目すべてにおいて肯定的な回答が増加した。特に「熱心に教えてくれる」「よく話を聞いてくれる」の項目に関しては、教職員が課題意識をもって取り組んだ結果、昨年度に比べ肯定的な回答が10%近く増加している。保護者については、昨年度課題が残った「教育活動への熱心さ」「社会人としてのマナー」の項目について若干ではあるが肯定的な回答が増加した。今後さらに児童・保護者からの信頼が得られるよう、親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を図っていく。



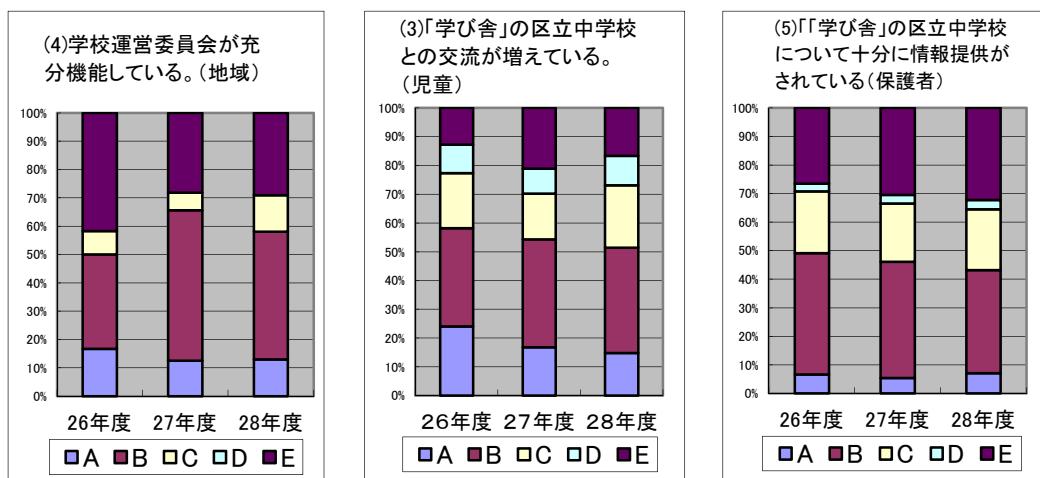
## ⑥広報活動・情報提供について

地域からの回答では、「地域に向けて情報提供をしている」の項目において90%を越える肯定的な回答を得ることができ、「学校公開などで学校の様子がよくわかる」の項目でも肯定的な回答が増加傾向にある。一方、保護者の回答では同様の項目において肯定的な回答に減少傾向が見られ、保護者に向けての情報発信方法を改善することが求められている。ホームページについては、一昨年度から改善が見られず、否定的な回答が20%近くに増加している。今後は掲載内容や掲載方法を見直し、さらに興味をもって見ていただくための手段を工夫してホームページを更新していく。



## ⑦地域との連携について

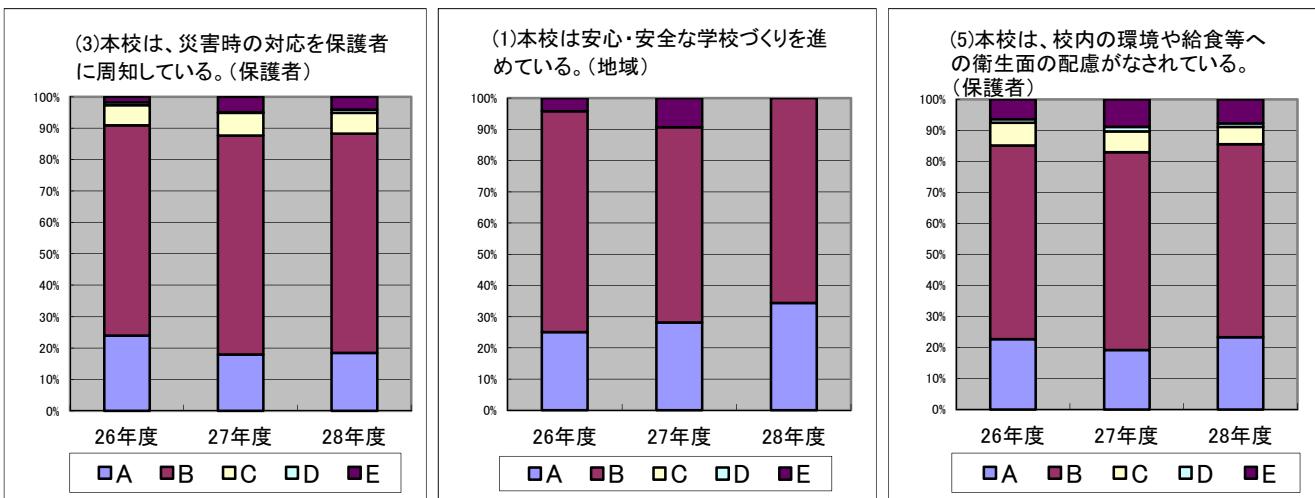
「学校運営委員会が充分機能している」については、地域からの肯定的な回答が10%近く減少した。今後も学校運営委員会後に発行される委員会便り等を読んでもらうことで活動を周知し、活動がより機能していくようとする。「学び舎」の活動について、児童の「『学び舎』の区内中学校との交流が増えている」の回答では否定的な回答が10%近く増加した。また、保護者に関しても未だ情報が十分に届いていないことが伺える。学び舎の交流がより活発になるように、小中合同での授業研究や挨拶運動、育てた野菜の交換等の活動を充実させていくことが課題である。一方で、保護者の「学び舎」についての肯定的な回答は減少傾向にあるため、学び舎での活動をより積極的に周知していけるよう、今後も学校便りの配布等で学び舎としてお互いの様子を伝えていく。



## ⑧学校の安全性について

保護者の「災害時の対応を保護者に周知している」についての肯定的な回答が90%に近く結果、地域の「本校は安心・安全な学校づくりを進めている」については肯定的な回答が100%であった。今後も引き取り訓練を行ったり、災害や不審者等の対策について情報を発信したりすることで、保護者が安心して児童を学校へ送り出すことができるよう万全の対策を取っていく。

「校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」についての肯定的な回答は、昨年度に引き続いて80%を超えており、給食試食会での調理の衛生管理についての説明、給食便りの内容の充実、校内美化等の取り組みが評価されたものと考えられる。今後も環境や衛生面の配慮を怠らず、継続して取り組んでいくようとする。

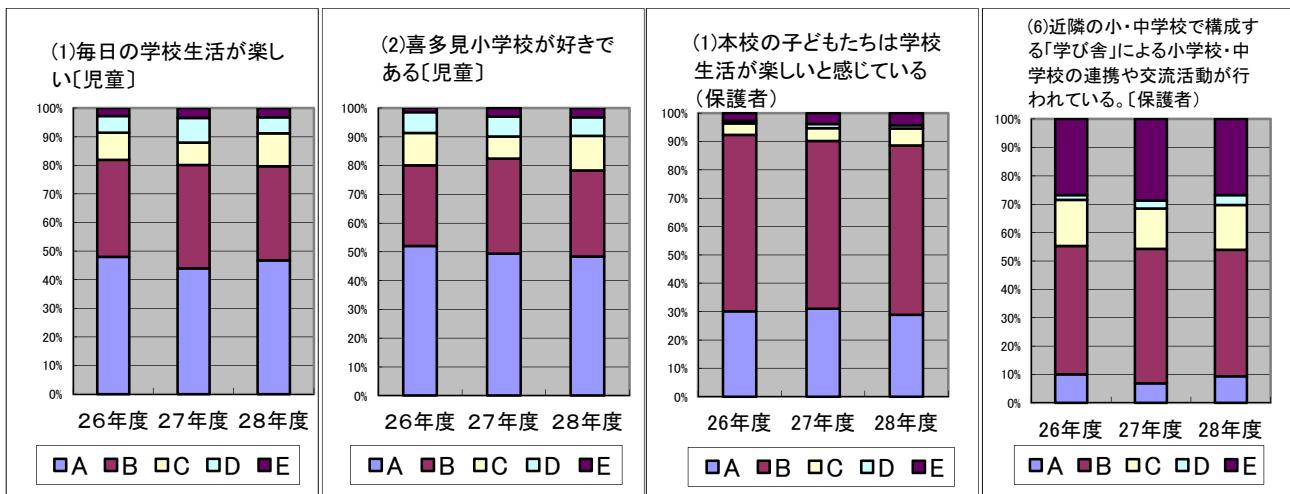


## ⑨学校生活全般について

児童について、「毎日の学校生活が楽しい」の項目では、否定的な回答が若干増加したが、肯定的な回答のAが増加した。また、「喜多見小学校が好きである」の項目では、否定的な回答が増加傾向にある。保護者でも、「子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の項目の肯定的な回答は90%を少し切っている。校舎改築のため、遊び場の確保が難しく、児童が体を思いっきり動かせる機会が少ないということも考えられるが、保護者や児童の声に耳を傾けながら、より充実した学校生活の実現を目指していくことが課題である。

「隣の小・中学校で構成する『学び舎』による小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」については、少しずつ肯定的な回答が増加してきている。

今後も、あいさつ運動、エコキャップ回収、育てた大根と小松菜の交換など活発化させていく。



## ⑩独自項目

保護者では、「子どもたちは、あいさつをよくする」、「子どもの言葉遣いがよい」について肯定的な回答が増加している。また、児童の「わたしは、よい言葉遣いをしている。(目上の人に対する言葉遣いなど)」の項目でも肯定的な回答は昨年よりも増加した。保護者・児童とも言葉遣いに対する実践力に課題意識をもっていたことが分かる。その結果、昨年まで、減少傾向にあったが、保護者と教職員と共に理解のもとしつけ・指導に取り組んできたり、朝会や学級指導などで、「ふわふわ言葉を使おう。」など、児童に具体的な目標をもたせたりするなどの結果ではないかと考えられる。しかし、同じ大人相手でも、立場や親しみやすさによって態度や言葉遣いが変わる子がいたり、注意を受けていても口答えする子がいたりすることから、学校や家庭における目上の人への挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣づけを継続して行う必要がある。

「漢字検定を通して家庭での学習時間が増えた」の項目では、肯定的な回答が昨年度と同様に、ほぼ60%の保護者が子どもの学習時間が増えたと感じている。年々、肯定的な回答が増加しているので、引き続き、漢字等の基礎基本を習得することに課題意識をもち、児童や保護者が自発的に学習に取り組む意識が高まるよう、今後も取り組みを工夫していくことが課題である。

